基本目標Ⅱ　みんながつながる地域づくり
～世代を超えたつながりづくり～

地域での助け合い、支え合いを進めるとしても、お互いに見たことも話したこともない人同士では、支える側も支えられる側も戸惑います。日頃からの関係が築けていてこそ“助けたい”“助けてほしい”と言い合えるのではないでしょうか。住民同士が自然に助け合える、協力し合える関係づくりを広げましょう。

また、核家族化や少子高齢化、地域での人間関係の希薄化などにより、家庭や地域の“子育て力”が低下していると言われています。将来を担う子どもたちがより豊かに育っていけるように子育てを地域で応援しましょう。

1．仲間づくり活動・居場所づくり活動（サロン活動）の拡充

○仲間づくり活動の参加者の減少を課題にあげるグループもありますが、市全体で見るとグループ数は増加し、活動内容も多岐にわたります。“参加者”“世話人”に分かれず、地域住民みんなの手づくりの活動を楽しみましょう。

○何かあったときに身近で頼り、助け合える関係をつくる場です。活動に参加することで住民の様子をお互いに知ることができ、安否確認や困りごとを把握する機会にもなります。

○退職後の閉じこもり解消や健康維持・向上による介護予防、認知症予防などの効果も期待できます。

○デイサービス等の公的サービスを利用するようになっても、馴染みのある地域とのつながりを保つために、仲間づくり活動等への継続した参加を呼びかけましょう。

○「歩いていける範囲」に活動拠点があることが望まれます。公民館や自治会の集会場だけでなく、利用可能な施設や空き家等を交流の場として活用し、参加者の輪を広げましょう。

●仲間づくり活動

緩やかなルールのもと、気軽に集まり、軽体操・講話・レクリエーション・食事・ボランティア活動等のプログラムを定期的（週１回～月１回）に実施する。

●居場所づくり活動

集会場等を開放し、好きな時に、好きな時間、好きなことをして過ごせる場所を提供する。

2．世代間交流を通じた次世代育成

〇住民アンケート調査の結果から、小さな子どもを持つ親世代も、子どもたちと地域のつながりを望んでいることが分かります。誰もが気軽に参加・交流できる機会をつくり、地域住民による世代間交流を進めることで地域に一体感を生み、活気あるまちづくりをめざしましょう。

〇子どもたちが主役になれるような楽しい行事を実施して、地域と子どもたちとの交流の機会をつくりましょう。子どもを介して親世代と地域の接点をつくり、地域の魅力を知ってもらうことで、積極的に地域の活動に参加してもらいましょう。

●世代が異なる団体（子ども会・老人クラブ　等）が合同で行事を開催して交流を図ることで、世代間の理解を深めましょう。

●仲間づくり活動・居場所づくり活動を活用して、子どもたちと高齢者が一緒にふれあえる場をつくりましょう。

●学校やＰＴＡとの連携を積極的に図りましょう。学校行事や子ども会行事を地域に向けて発信し、各世代に参加を呼びかけ、子どもたちとの結びつきを強めていきましょう。

●地域の伝統や文化、歴史を次の世代に伝えることも重要です。先人から続いている行事を継承するために、子どもたちの参加を促し、一緒に盛り上げましょう。

《地区で行われている取り組み例》

・夏祭りやクリスマス会等、地域をあげて季節の行事を開催
・花いっぱい運動
・園児が高齢者施設を訪問し交流を図る
・児童を対象にした昔遊び教室
・三世代交流ペタンク　　など

3．子育てを応援する地域づくり～地域で子どもを守る～

〇地域の子どもたちの安全を、地域のみんなで守りましょう。交通事故や犯罪から子どもたちを守るために、登下校時のあいさつ運動や見守り等に積極的に取り組み、顔見知りの関係をつくりましょう。また、事故等が多い場所の予防策を地域で考えて共有しましょう。

〇子育て世代の声は周りに届きにくく、地域から孤立しやすい現状があるようです。身近な地域に、子育ての悩みや不安を共有できる場や気軽に相談できる相手がいることで、安心感を持って子育てができるのではないでしょうか。子育てを地域で支える取り組みを進めましょう。
（例：子育てサークル、子ども食堂　等）

〇民生児童委員は地域における相談・支援のボランティアです。子どもや子育てに関する支援を専門に担当する主任児童委員も活動しています。“様子がおかしいな”と感じる子どもがいた場合は、担当の民生児童委員や主任児童委員に相談しましょう。

4．防災を通じた地域の連携

〇大きな災害が起こったとき、公的機関の救援・救護がすぐに行えないことが想定されます。その場合に頼りになるのが、住民同士の助け合いです。いざという時に隣近所で助け合えるように、日頃からつながりを保ち、信頼関係を深めておくことが重要です。

〇防災は世代を超えて地域がつながるきっかけにもなります。全世代を巻き込んだ防災セミナーや防災訓練に取り組むことで、地域住民の防災意識を高めるとともに、協力し支え合える関係をつくりましょう。

〇災害時、配慮が必要な人（高齢や障がいにより自力で避難することが困難な人、妊産婦、乳幼児など）も安心して地域で生活を送れるように、「何に困るか」「どういった手助けができるのか」「地域で取り組めることはないか」等、みんなで考える機会を設けましょう。